

BMXで空中を跳んでいる感覚が、何より楽しい――

2020年東京五輪の新種目として採用されるBMXフリースタイル・パーク。大池さんは、今年5月にフランスで開かれた同競技の女子ワールドカップ（W杯）で、自身初そして日本人初となる優勝を果たしました。

【父の背中が挑戦の原点】

BMX（バイシクルモトクロス）フリースタイル・パークは、小径の自転車を操り、1分間で連続的な技を魅せる競技。斜面や大中小のジャンプ台などが設けられた人工施設で、豪快な回転や空中技などの芸当を披露し、その難易度や独創性を競います。

「二輪スポーツが好きで父の影響で、小学校に上がった頃には、オートバイのモトクロスを始めました。2年後には、バイクトライアルという自転車競技に転向した」



のですが、ルールやスピード感の違いに戸惑い、しばらくは二輪スポーツから離れてしまいました。でも中学2年生の時、父と訪れたスケートパークで空中を跳ぶBMXを見て一目惚れしたんです。

池さん。その後、島田工業高校に進学すると、一層BMXにのめり込んでいったと振り返ります。

「指導者が少なく、国内大会に女子部門もなかったため、練習は常に男子と。学校が休

して注目を集めても、変わらない感覚です」

【地元の声援をバネに】

現在、世界ランキング3位につける大池さん。日本自転車競技連盟の強化指定選手にも認定され「自転車好き」の彼女は、女子選手として東京五輪出場が最も有力視されるまでに成長しました。



BMXフリースタイル・パーク選手  
大池水杜さん(阿知ヶ谷)

全ては、バイクの後部座席に乗り、父にしがみついていたのが始まりですかね」

【自転車は生活の一部】  
六合中学校では、サッカー部に所属していたという大

みの日は一日中、練習に明け暮れていました。メイクやファッションよりも自転車。小さい頃から遊び道具だったBMXは、もう私の生活の一部になってしまいました。それは、オリンピックの種目と

「海外遠征で出会った世界のトップライダーたちの技術だけでなく、競技に対する姿勢に、すごく刺激を受けました。失敗しても、次の自分の人生につなげることは絶対できる。だから今しか出来ないことは、何に代えても挑戦したいと思うようになったんです。W杯の優勝で、五輪への一步を踏み出すことができました。次は、周囲や地元の皆さんからの応援をバネに、金メダルを狙って頑張るのみです」

得意技は、ジャンプして自転車が空中に浮いた時に、ハンドルから手を離す「ノーハンド」。両手を大きく広げ、大池さんはメダル獲得に向けて世界へ羽ばたきます。



跳ぶことが大好きな大池さんが、両手を大きく広げて決める「ノーハンド」

Shimadajin File #85

Story 島田人